

都市再生整備計画(第8回変更)

あさひくしらね
旭区白根地区

かながわ 神奈川県 よこはま 横浜市

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	横浜市	地区名	旭区白根地区	面積	490 ha
計画期間	平成 17 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 17 年度 ~ 平成 21 年度				

目標

都市部に残された源流域、湧水、緑地という地域資源を活用して、将来にわたり、子どもからお年寄りまでが安全に水と緑に親しめるまちづくりを市民と協働で進める。
また、安心して歩ける歩道整備や地域防災拠点の整備により、災害に強いまちづくりを目指す。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

白根地区は、昭和30～40年代に急速に開発が進んだことで、樹林地や農地が減少し、一方で、アスファルトやコンクリートなどの地表面が増えた。それに伴い、谷戸という自然の涵養機能が失われ、降雨時には急速に流出量が増加するようになった。そこで、低地区での浸水被害を防ぐため、河川改修や下水道整備により、治水対策を行ってきた。その整備効果により浸水被害が減少したものの、管渠の整備によって水路の水量が減少したため、人は水辺に近づけなくなり、谷戸の風景の象徴であった中堀川は、その役目を失いつつある。

これまで当該エリアは、緑化重点地区の指定を受け、公園や緑道の整備を行ってきており、平成16年8月に策定した都市マスタープランの旭区プランでは、区域の中心を流れる中堀川を「水と緑の軸」、横浜動物の森公園周辺を「緑の拠点」と位置づけ、旭区の自然を支える基盤として保全・再生することとしている。また、中堀川の両岸は低層住宅を中心とする土地利用方針を定めており、上白根地区では、「旭上白根一丁目地区地区計画」を策定し、緑豊かなまちなみの形成を図ることを目標として、狭あい道路の整備促進や緑化の方針などを定めている。

中堀川と並行している上白根第84号線(通称白根通り)は、最寄り駅の鶴ヶ峰駅への重要なバス路線となっているが、バスペイがなく、停留所の前後では通行の支障となっているほか、連続的な歩道も設置されておらず、安全な歩行者空間が確保されていない。また、横浜動物の森公園は周辺地域からの来園者の多い大規模レクリエーション施設で、行楽シーズンに自家用車で著しい交通渋滞を発生させており、緊急車両の円滑な通行確保のためにも、交通対策の一部として駐車場の確保が必要となっている。

このような状況から、昭和61年より整備に着手し、平成10年には地域戦略プランに位置づけて進めてきたが、未だ完成はしていない。市民からは、連続的な歩道設置やバスの定時運行の確保という日常的な課題、及び、災害時の緊急車両の円滑な通行や避難路の安全性向上という観点から、当該地区における整備計画について、早期実現を要望する声があり、現在も多数寄せられている。

さらに、災害時の避難場所となる地域防災拠点の点検・改修も急務となっている。

こうした人間の社会活動にあわせた施策の一方で、環境への負荷が小さく、市民レベルでも対応可能なシステムのひとつとして、庁内の横断的な組織において「小規模分散型発電システムの普及による環境対策」の検討が進められている。ここでは、地下にためた雨水を風や太陽光などの自然エネルギーを発電源とする電力によってくみ上げ、災害時の上水や雑用水に活用することや地上の常用照明に用いることなどに応用できると考えられている。

課題

- 中堀川の本風景である谷戸の姿が消滅し、市街地の近隣からの湧水などの地域資源に市民はふれることができない。
- 市街地での拡幅事業に年数を要しているため、安心して歩ける歩行者空間の確保や緊急車両の円滑な通行に支障をきたしている。
- 市街地での治水対策として、雨水管の面整備とあわせ、流域全体で雨水を涵養するというシステムが構築されていない。
- 市街化が急速に行われたため、防災拠点の整備が遅れている。
- 地域活動の拠点となる施設が整備されていない。

将来ビジョン(中長期)

地区の将来ビジョンについては、都市計画マスタープラン旭区プランによるまちづくり目標と方針を策定するための取組みを行っているところである。現在、「くらしを大切にしまち」の将来像のもとに、具体的な目標を4つ定めている。

- ①水と緑と公園に囲まれて自然と身近にふれあえるまち
- ②駅周辺がにぎわい暮らしが便利で楽しいまち
- ③交通ネットワークが整って気軽に外出できるまち
- ④地域で支えあい、安心して住み続けられるまち

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	目標値		
				従前値	基準年度	目標年度
親水空間誘致エリア	%	地区内で歩いて水辺に親しめるエリア(誘致距離500m以内)	10	平成16年度	60	平成21年度
地域防災拠点の耐震化率	%	震災時避難場所に指定されている公共施設の耐震化率	70	平成16年度	100	平成21年度
水辺愛護会等への加入者数	人	日常の維持管理を行う活動団体への加入者数	0	平成16年度	55	平成21年度
公園愛護会等への加入者数	人	日常の維持管理を行う活動団体への加入者数	0	平成16年度	10	平成21年度
コミュニティハウス施設利用者数	人	施設の利用人数	0	平成16年度	30,000	平成21年度
ズーラシア動物園の駐車台数	台	交通渋滞緩和のための駐車台数確保	760	平成18年度	1,450	平成21年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>・流域全体で水を涵養し、安全に水と緑と公園に親しめる環境を整備する事業</p>	<p>方針に合致する主要な事業 (仮称)中堀川せせらぎ緑道整備 白根地区環境整備事業 都岡公園 上白根おもて第二公園 白根公園 上白根南の森緑地保全事業(地域生活基盤施設) [提案事業]雨水浸透施設設置事業 (仮称)中堀川せせらぎ緑道整備検討会 浸透施設設置に伴う調査</p>
<p>・地域の防災強化により災害に強いまちをつくる事業</p>	<p>地域防災拠点整備工事 ズーラシア動物園立体駐車場整備事業 [提案事業]老人福祉センター(福寿荘)耐震補強その他工事 旭ブルーアスベスト対策その他工事 雨水浸透施設設置事業</p> <p>[関連事業]環境貯水槽整備 道路拡幅事業 狭あい道路拡幅整備事業 横浜動物の森公園</p>

その他

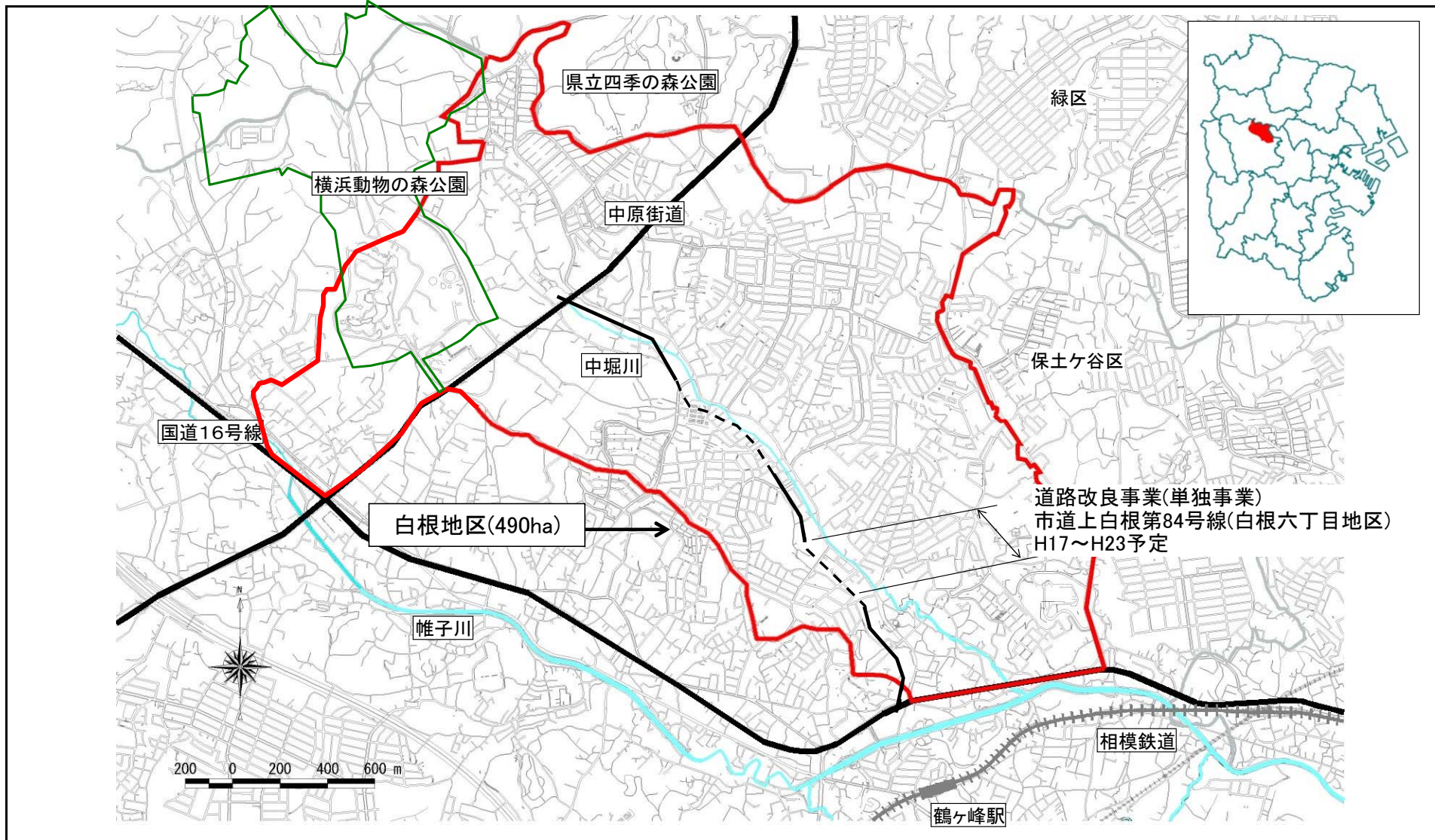
防災拠点への誘導避難看板等の設置や防災時の放送施設の設置については、提案事業で予定している地域住民によるワークショップ等で今後設置要望があれば、設置予定個数、箇所などを定めていく予定である。

防災拠点の耐震化については、横浜市公共建築物耐震対策事業計画に基づき、災害時に果たすべき機能の重要性に加えて、耐震性能や建設年度、費用対効果などを勘案しながら整備を進めている。本地区において、早期整備が方針づけられている防災拠点(不動丸小学校、白根小学校、上白根小学校、大池小学校、ひかりが丘小学校)、支援施設として位置づけられている白根地区センター、及び特別避難場所となっている白根地域ケアプラザは、既に耐震対策が完成している。

地域住民の学習や趣味の講座等グループ活動を通じたコミュニケーションの場の提供(上白根コミュニティハウス整備事業)

都市再生整備計画の区域

旭区白根地区(神奈川県横浜市)	面積	490 ha	区域	上白根町、上白根一～三丁目、中白根一～四丁目、白根二～八丁目、都岡町
-----------------	----	--------	----	------------------------------------



旭区白根地区(神奈川県横浜市) 整備方針概要図

目標	都市部に残された地域資源を活用して、流域全体で水と緑に親しめるまちづくりを進める。また、地域の防災強化により災害に強いまちづくりを行う。	代表的な指標	親水空間誘致エリア (%)	10	(H16年度)	→	60	(H21年度)
			地域防災拠点の耐震化率 (%)	70	(H16年度)	→	100	(H21年度)

